

4. 職員研修

(1) 平成19年度公立大学協会図書館協議会研修会（名古屋市立大学）

- ① 主催 公立大学協会図書館協議会
- ② 担当 名古屋市立大学（中部地区）
- ③ 趣旨 大学図書館の当面する諸問題について研修を行い、図書館職員の知識・能力の向上を図る。
- ④ 日時 平成19年8月3日（金）
- ⑤ 会場 名古屋市立大学 附属病院第一会議室
- ⑥ テーマ 「大学図書館と公共図書館－地域内連携の試み」
- ⑦ 参加者 28大学37名
- ⑧ 日程

講演1 「公立大学図書館サイト診断 HPの比較・検証」

岡本 真氏（Academic Resource Guide）

講演2 「ウェブチュートリアルKITIEについて」

市古 みどり氏（慶応義塾大学信濃町メディアセンター）

基調講演「大学図書館は学術コミュニケーションの変革の中でどのように変わってゆくのか」 竹内 比呂也氏（千葉大学文学部）

事例報告「大学図書館と公共図書館 地域内連携の試み」

村上 昇平氏（愛知芸術文化センター愛知県図書館）

森田 正氏（鳥取大学附属図書館）

- ⑨ 報告 研修会の内容をとりまとめ、公立大学協会図書館協議会ホームページに掲載

⑩ 研修会決算報告

収入	研修会予算	310,000円
	銀行利息	22円
	合計	310,022円

支出	講師謝礼	118,060円
	講師交通費	76,630円
	講師昼食代	5,000円
	スタッフ等昼食代	16,000円
	お茶代	14,400円
	報告書作成費	57,750円
	消耗品費等	11,116円
	手数料等	10,840円
	合計	309,796円

残高	（返金額）	226円
----	-------	------

(2) 大学図書館職員長期研修

- ① 主催 筑波大学
- ② 日時 平成19年7月2日(月)～7月13日(金)
- ③ 会場 筑波大学春日地区情報メディアユニオン2階ホール及び中央図書館集会室
- ④ 受講者 国立大学28名、公立大学2名、私立大学6名
計36名
- ⑤ 研修報告

平成19年度 大学図書館職員長期研修参加報告

大阪府立大学学術情報センター図書館 木下厚美

<はじめに>

研修は、平成19年7月2日から7月13日までの2週間、筑波大学で開催され、全国の国立大学図書館等の中堅職員に対し、学術情報に関する最新の知識を教授するとともに、図書館経営・情報サービスの向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させることを目的としている。

<図書館に関する経営及びマネジメント論>

経営やマネジメントについては、日常業務に追われてなかなか体系立てて勉強することができないので大変参考になった。図書予算を獲得するための提案については、調査と統計が基礎になるということ、また、それをきちんとPRしないといけないということ。図書館としての戦略と組織ができれば、次は人を動かすためのリーダーシップのあり方が重要になる。職員が高いモチベーションを持って業務に取り組むためには何が必要なのか、という講義を受けた。

<学術情報流通各論>

学術雑誌の出版事情、書店の販売戦略、情報リテラシー教育、Web2.0時代の図書館の戦略等、多岐にわたる講義を受け、図書館を巡る新しい状況を把握することができた。新しい図書館としてラーニングコモンズという、施設・設備と資料及び人的サービスを複合して提供し、図書館に人を集める海外の事例は興味深いものだった。情報リテラシー教育に関しては、レポートの作成方法の講習会を図書館員が行っており、学生に人気があるという報告を伺った。図書館を取り込んだ学習の効用をアピールすることにより図書館の利用を促すことができる。

筑波大学図書館の図書館システムリプレイスの状況を講義で伺ったことは大変参考になった。仕様書を作成し、ベンダーと調整しても、「いざリリースしてみるとこんなはずじゃなかった」ということがおきる。結局は「システムの限界がサービスの限界」になってしまう現実がある。それを補うためには、図書館員の日々の努力が欠かせないと思う。

学術機関リポジトリについては、N I Iの事業計画及び各大学の状況や課題を伺うことができた。大学の構成員による論文等の研究成果を各大学が収集・管理し、メタデータ化することで外部から容易に検索・入手できるようにする仕組みで、図書館が大学情報発信の中心になる事業で

ある。本学では、中尾佐助データベースの公開を教員の協力を得て行っているが、今後学術機関リポジトリの一環と位置づけ、図書館事業として整備する必要があると思う。

<図書館の危機管理>

最近は予期せぬ危険なことが起きており、多くの人が集まる公共の場所として図書館の危機管理は重要である。急病人が出たときの対応、感染症への対応、暴力行為や嫌がらせ、ストーカー行為への対応については具体的な事例を引きながら講義を受けた。いざというときにすぐ準備ができるように日頃から注意をしておかないと、とっさの時に対応できない。消防訓練は毎年行われているが、それ以外の危機管理についても実習が必要であろう。

<企画立案演習>

班別討議、企画書作成では、なかなか班のテーマが決まらず、講義後夕食をとりながらテーマを絞りこむことになった。しかしながら結局、各大学によって事情が違ふこともあり、個別のテーマは各大学に応じた事例を作成した。国立大学の状況や私立大学の状況等について具体的な話をうかがうことができ、また、困っていることについても共感する部分があった。今後、この人脈を業務に生かしたい。

<おわりに>

この研修に参加して、業務を見つめ直すとともに、大学図書館を取り巻く状況の厳しさを再確認することができた。研修全体を通じてどの講義でも、これからの大学図書館について考えると、教員との連携は欠かせないということが述べられていた。図書館員だけでは限界があるので、教員と連携をとり、図書館の必要性についてアピールする必要がある。

最後になりましたが、忙しい中、研修の機会を与您いただき、研修期間中の業務をサポートして下さった職場の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

平成19年度 大学図書館職員長期研修 参加報告

福島県立医科大学附属学術情報センター 秋葉さおり

<はじめに>

このたび、参加の機会を与您頂いた筑波大学主催の大学図書館職員長期研修についてご報告致します。

開催期間：平成19年7月2日（月）から7月13日（金）

場 所：筑波大学春日キャンパス

参加者：36人（国立系－28名、公立－2名、私立－6名）

開催目的：(実施要項より) 学術情報に関する最新の知識を教授するとともに、図書館経営・情報サービスの在り方について再教育を行い、職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させること

<図書館マネジメント総論>

「経営学入門」等、将来管理職に就くことを意識した一連の講義でした。自分が物事を判断・決定する立場にいたらどう動くのか、という俯瞰的な視点を持つことができました。

ある講義の開始直後に匿名で行われたアンケートでは「大学全体の予算はどれくらいか、資料費はその何%か」等の設問がありました。自分の業務に関わる予算は気になるものの、それが図書館予算全体の中でどのくらいの割合なのか、大学の中でどれほどの割合を占めるものなのか、正確に把握しておくべき事柄であることを痛感しました。

<学術情報流通等各論>

図書館は利用者のどの層に重点を置くべきか—ある先生は「学部学生」、ある先生は「院生以上」と断言されていました。漠然と「どの利用者にも平等であるのがよい図書館」と考えていましたが、どこにターゲットを置くのかはとても重要だということに気づきました。そこを基点として「どういう図書館を作っていきたいのか」が定めれば、図書館としてのぶれない軸ができ、そのときはじめてどの利用者にも同じ対応ができる—のだろうと思います。

講師陣は筑波大学の先生が多かったのですが、中には外部から招かれた方もいらっしゃいました。

『リアル書店の戦略』（ジュンク堂書店田口氏）ジュンク堂書店の魅力の源は社員にプレッシャーを与えない社長と、担当売場を採用から定年まで変えないことで培われる社員のプロ意識の高さにあるようです。「ジュンク堂のお客様は専門知識をお持ちの方が多いため日々勉強」という言葉には医学図書館で働く者として深く共感しました。

『図書館の危機管理』（草津町立図書館中沢氏）各大学で実際に起こった事例が紹介されました（研修前にアンケート実施）。不審者、災害、感染症など危機管理の対象は様々あり、他館のまねではなく、各館独自のマニュアルが必要ということでした。

<企画書作成>

研修全体の約4割近くの時間が班別討議・企画書作成にあてられました。これだけの時間を班別討議に割くのは初めてということで、恒例の国会図書館等の見学がカリキュラムからなくなりました。

週ごとに各々テーマが設けられ、5つの班に分かれて1日目から3日目が班別討議、4日目が企画書作成・全体発表・講評というスケジュールで進められました。研修前にテーマの予告はあったものの、私も含め企画書作成の経験が無い方がほとんどで、負担に感じていた方も多かったようです。

1週目のテーマは「大学図書館経営」で、予算を獲得するための具体的な方策を検討し大学執行部に要求するという想定のもと、各班でさらに具体的なテーマを決めて話し合いをしました。私の班のテーマは『学生用図書費の要求』でした。各人、業務担当も違えば大学の事情も違いますので、共通のテーマを作ることもそのものが難しいものでした。

が、話し合いそのものは大変実り多いものでした。各大学の内情（苦しい予算状況など）を伺ったこと、同じ班の方が収集してくださった企画書作成に役立つ資料（参考文献・各大学の中期

目標)は今後の仕事にも役立つことと思います。

企画書は班別討議での結果を各自の図書館にフィードバックし、半日かけて作成します。全体発表で他の班は「定員削減に対抗する」「教育基盤強化」等のテーマで発表し、講評では先生方からお褒めの言葉をかけて頂く方もあり、そのまま執行部に持っていけるくらいの斬新かつ現実的な企画が見受けられました。

2週目のテーマは「新しい図書館サービスモデル」ーデジタル環境下における新しい図書館サービスモデルーで、私の班は『My Library を活用した利用者サービス』について話し合いました。学生に対してどんなサービスができるのか、様々なアイデアが出されました。班別討議では、その日受講した講義内容を吟味して反映させるなど、充実していました。全体発表で他の班は「教員と連携したサービス」「文献入手の利便性向上について」「図書館から発信するサービス」等のテーマで発表し、図書館がこの先、学生・教職員から必要と思ってもらえるためにはどうすれば良いのかー真剣に考えることのできた時間でした。

<その他>

研修期間中はネットワークアカウントが交付され、キャンパス内にある実習室のパソコンを平日はもちろん、土日も使用することができました。筑波大学で導入している統合検索システム「MetaLib」を利用できたことは収穫でした。

講義中、また休憩時間にも「機関レポジトリ」という言葉を聞かない日はありませんでした。今まさに取り組んでいる方、これから取り組む方、様々な情報交換が行われていました。

また、平成19年3月に筑波大学が発表した「今後の『大学像』の在り方に関する調査研究(図書館)報告書」は講義で度々紹介され、班別討議でも話題になりました。

<おわりに>

研修に参加した方々の仕事に対する前向きな姿勢と勉強熱心さにはとても良い刺激を受けました。また、錚々たる講師陣による講義を受講できたことは、何よりありがたいことでした。二週間職場から離れることは自分や周囲にかかる負担は大きいですが、それだけの価値はある研修です。年齢等該当する方々には参加をおすすめします。

最後になりましたが、歴史あるこの研修に参加する機会を与えて頂いた、公立大学図書館協議会に深く感謝致します。そして、研修で大変お世話になった大阪府立大学の木下様、忙しいなか研修への参加を認めて頂き、仕事のフォローをして頂いた職場の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。